

[平成29(2017)年2月9日]

日本経済新聞

がん治療 新時代

①

がんの治療が大きく変わろうとしている。日本人研究者の成果から画期的な新薬が誕生。膨大な患者の遺伝情報を解析して最適な治療法を探す試みも進む。副作用に耐えながら治療を進める患者の姿は一部で変わり始め、長生きができる」と珍しくなくなってきた。

「すごいショックで数日間は泣いて過ごした」。東京都に住む佐藤小百合さん(44)は2011年、主治医から肺がんの再発を告げられた。34歳で発症し、手術後の経過観察中だった。説明では、小さながんがあちこちに散らばっていた。

投薬後ほぼ消滅

「子供に恥ずかしい姿を見せられない」と前向きに闘病を決意。しかし1年半後、がんは大きくなり抗がん剤の治療を受けた。進行は止まつたが、全身が痛むなどの副作用に苦しんだ。佐藤さんを救ったのは米

メルクの日本法人が15日に発売するがん免疫薬「キイトルーダ」の臨床試験(治

がんの治療が大きく変わろうとしている。日本人研究者の成果から画期的な新薬が誕生。膨大な患者の遺伝情報を解析して最適な治療法を探す試みも進む。副作用に耐えながら治療を進める患者の姿は一部で変わり始め、長生きができる」と珍しくなくなってきた。

「すごいショックで数日間は泣いて過ごした」。東京都に住む佐藤小百合さん(44)は2011年、主治医から肺がんの再発を告げられた。34歳で発症し、手術後の経過観察中だった。説明では、小さながんがあちこちに散らばっていた。

投薬後ほぼ消滅

「子供に恥ずかしい姿を見せられない」と前向きに闘病を決意。しかし1年半後、がんは大きくなり抗がん剤の治療を受けた。進行は止まつたが、全身が痛むなどの副作用に苦しんだ。佐藤さんを救ったのは米

画期的な新薬 免疫活用 日本で産声

肺がんを克服して趣味の声楽の練習に励む佐藤さん(東京都目黒区)



モノーベル賞候補といわれている。

効果には個人差

この治療法では、がんを守る細胞の働きを止め、無防備になつたがんを免疫に攻撃させる。余命1年半ほどと宣告された末期の白血病患者で試し、普通に生活できるまでに回復した。江副幸子講師は「今の薬が効かない患者の治療が期待できる」と話す。

日本がん免疫学会理事長の河上裕慶心義塾大学教授

は「がん治療にパラダイム

シフトが起きた」とみる。

しかし、効果がある患者

は最大でも3割ほどだ。重

い副作用が出ることもある。

事前に効く患者を見極めることが欠かせない。

京大の小川誠司教授らは

オプジーオの効き目を予測

する技術を開発。鹿児島大

学の石塚賢治教授らが白血

病患者で有効性を確かめる

治療に取り組む。ただ、こ

の予測法は全ての患者に使

えるわけではなく、より優

れた技術の開発が必要だ。

世界では新たながん免疫薬の治験が1000件以上も進んでいる。今後も画期的

抗がん剤は延命効果はあるが、完全に治ることはほんのり組む。この特殊な細胞を

発見した坂口志文特任教授(関連記事14面に)